



SDGs を探してみよう



食品ロスの影響

年間
日本の食品ロスの量…約621万t
→世界の食料援助の量の2倍

一人あたりに
すると…

→毎日お茶碗1杯分
の食品が捨てられ
ています。



お金にすると…

→一人あたり、年間
約12,000円の損失になります。



経済の循環を考える

本町の地域経済循環率は

59.7% ※内閣府公表 2013年推計

となっており、町内での所得の約4割が、町外への支出として流れているということになります。

このような損失をできるだけなくし、地元の食材や素材をできるだけ選んで使うことで、町内の経済の好循環にもつながります。

食品と食費の無駄を無くす。

賞味期限が切れたらすぐに捨てていませんか？

「賞味期限」を過ぎても、食べられないということではありません。

おいしく食
べることが
できる期限

賞味 期限



消費 期限



過ぎたら食
べないほう
がよい期限

町内での試験的な取り組みとして、東又保育所において、食品ロスを無くすことを親子で一緒に楽しめる企画を実施しました。



晩ご飯を残さず食べたら
もぐにいいシールを貼る！



シールが貼れたお子さんに
表彰状を贈呈！

今後は、企業や大学などと連携しながら、町内への普及を目指します。

地元の木材を使う。

四万十町奈路の川崎さんは、町産木材を多くの人に見て、使ってほしいという想いから、地元の木を使ったおもちゃなどを作っています。



すべて町産木材。
こんなにも色の違いが！



精巧に作られた木製おもちゃ。
自然素材の優しさを感じます。



引き続き、町産材の利用促進や地産外商を強化していきます。

特集

第2期 四万十町

まち・ひと・しごと創生総合戦略

4つの基本目標

- 1 地域の特性を生かした雇用を創出する
- 2 四万十町へ新しい人の流れをつくる
- 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る

すべての人にとって、しあわせな暮らしができるまちづくり——。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは、急激に進む人口減少社会の中でも、このまちの暮らし・ひと・しごとを守り、誰もが安心・安全に、そしてそれぞれが求めるしあわせな暮らしができるようにするための町の重点的な施策をまとめたものです。これは平成27年度からはじまり、**今年度から令和6年度にかけて、第2期の総合戦略がはじまります。**

今月号から6月号にかけて、第2期の戦略の中でポイントとなる「SDGs(エス・ディー・ジーズ)」、「Society5.0(ソサエティゴテンゼロ)」、「女性が活躍できるまちづくり」について特集します。

シリーズ 1

四万十町 × SDGs

〔お問い合わせ先〕企画課 ☎22-3124

ひろげよう、誰でもできるSDGs

5 ジェンダー平等を実現しよう

小さな気づき

家事ひとつとっても、ゴミの分別、洗剤が切れたら買って詰め替える、トイレトーパーの補充など、名もなき家事も様々。小さな気づきを増やすことで、性別に関係なく、お互いが尊重し合える世の中に。

12 つくる責任つかう責任

賢くかんたん備蓄

災害時のための非常食。賞味期限が長い特殊な食品が多いですが、ふだん食べる食品でも、少し多めの買い置きで備え、ふだんの食事で食べる、そして食べたら買い足すことで、かんたんに備蓄できます。

3 すべての人に健康と福祉を

地元の食材で健康に

しょうがやみょうが、豚肉など、四万十町には健康に良いと言われている食材がたくさんあります。地元でとれた食材を食べることで、健康になれるだけでなく、地域の農家や企業の応援にもつながります。



四万十町版

四万十町は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

SDGs を考える。



ひとり取り残さない——。2015年に国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs(Sustainable Development Goals)」の理念です。「貧困をなくそう」など17のゴールを掲げ2030年までに持続可能な未来を達成することを目指すもので、四万十町でも、これからのまちづくりにSDGsの視点を取り入れ、2030年の町のあるべき未来を考えていきます。

四万十町にずっと住み続けたい。そう考えるためにはこの町の自然を守り、地域が支え合い、一人ひとりが未来のためにできることを考えることが必要で、それが誰ひとりとして取り残さない四万十町版SDGsとなるのでは。